



LABO7 生 夏の確かな成長（前編）

ぐずついた天気が続き、夏真っ盛り！とは言い切れない日々が続いていますが、夏期講習で生徒たちが足しげく通うこの時期、日ごとに元気な姿と確かな成長を垣間見ることができます。今回は、夏期講習の前半、7月下旬から8月上旬にかけ全3日程で行った小学生対象の無学年式プログラム「SUMMER ACTIVE PROJECT」と、8月9日に実施した「中学生 Communication 夏の大発表会」についてお伝えします。

“謎解き型アクティブラーニング”「NAGOYA 迷宮探索」では、1日目に名古屋の路線図や数種類の古地図、デジタル地形図などを用いて、災害に見舞われる可能性のある地名について調べました。とりわけ名古屋市西部が1300年前には海と島だったということから、水や低湿地にちなむ地名が今も数多く残されているという事実には生徒たちは驚きを隠せなかったようです。2日目には教室をとびだしてフィールドワークにチャレンジ。地下鉄を乗り継いで熱田台地のちょうど境目に位置する名古屋城付近と、同じく熱田台地の先端にあたる熱田神宮付近・旧東海道“七里の渡し”を実際に散策して標高の差を体感。1日目の調べ学習で得た知識を目で見えて確かめることができました。

“美を追究するアクティブラーニング”「LABO7 サイエンスアカデミー」では、1日目に建築・デザイン業界で用いられている“プロポーション”（均整と調和のバランス）の概念に触れながら、黄金比・白銀比などの比率を学習。私たちの身のまわりにこのような比率を用いたデザインが数多く存在していることを学びました。2日目には架空の斜陽都市・「羅保（らぼ）市」の地域活性化施策という設定のもと、黄金比・白銀比を使った新しい「市章」と「ゆるキャラ」を考案しプレゼンテーションを行いました。（市章・ゆるキャラ作りには中学生も挑戦。小中学生合同企画として「市章・ゆるキャラグランプリ」を開催します。）

一方の「中学生 Communication 夏の大発表会」は、公立私立の中学生が一堂に会した3本立ての学習発表。まず、私立中3生完全プロデュースによる「LABO7 法廷」では、昔話をモチーフに「鬼ヶ島の鬼が桃太郎を起訴したら」というオリジナル脚本で模擬裁判を実施。限られたメンバーながらも一人何役もこなして進めていきました。次に、中1生と私立中2生の共同企画・「ディベート対決」では受験勉強真っ只中の公立中3生の胸を借り、全国規模の大会“ディベート甲子園”の過年度の決勝テーマにもなった「救急車を有料化すべきか」について討論。（ちなみにこの年の優勝校は東海中学校でした。）チームワークで挑む中1・2生に対し、開校当初からLABO7で鍛えあげたプレゼン能力を遺憾なく発揮した中3生が余裕の勝利を飾りました。そして最後は昨夏にも実施した「LABO7 大統領選挙」。社会（江戸時代の幕政改革）内容から派生し、「もし自分が日本のリーダーになったら」という設定で公立中2生が熱弁をふるいました。

（来月号では、夏期講習後半の様子をお伝えします。）